

## 平成 22 年（2010 年）の鶴見岳・伽藍岳の火山活動

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

### ○2010 年の活動状況<sup>1)</sup>

#### ・噴煙など表面現象の状況<sup>2)</sup>（図 1～5）

監視カメラでは噴気は観測されませんでした。

12 月 15 日～16 日に実施した現地調査では、噴気地帯で少量の噴気および周辺より表面温度の高い領域を確認しました。

#### ・地震や微動の発生状況

火山性地震や火山性微動は観測されませんでした。

1) 鶴見岳・伽藍岳では、平成 22 年 11 月 1 日から湯山観測点および鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測を開始しました。

2) 鶴見岳監視カメラ（大分県）による。

---

この資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、九州大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

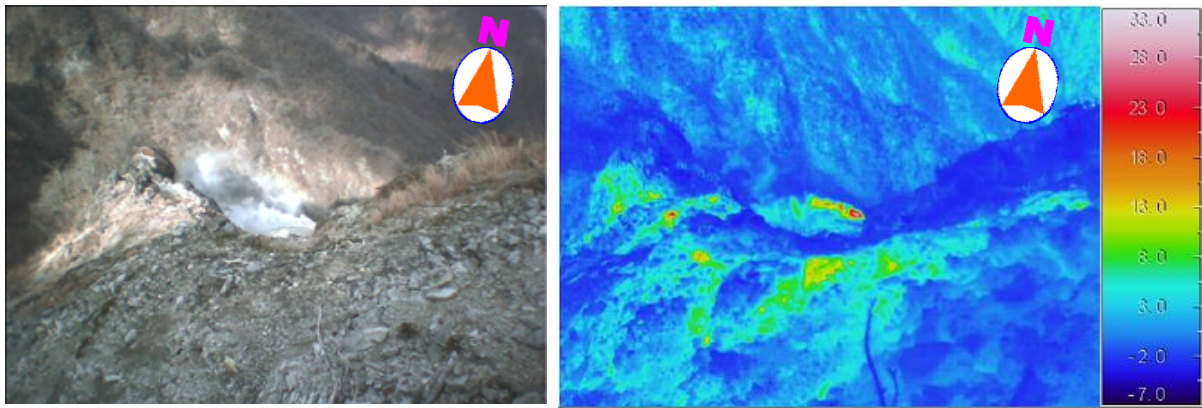


図 1 鶴見岳・伽藍岳（鶴見岳）  
赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による地獄谷赤池の地表面温度分布（12月15日撮影）  
地獄谷赤池で少量の噴気および周辺より地表面温度の高い領域を確認しました。  
地獄谷赤池は、鶴見岳山頂の北西約 1.2 km に位置する噴気地帯です。

3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

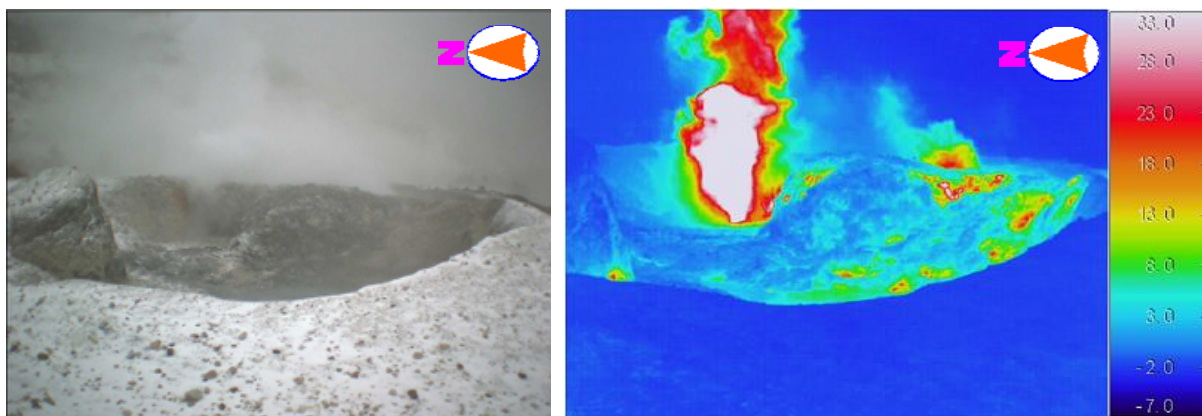


図 2 鶴見岳・伽藍岳（伽藍岳）  
赤外熱映像装置による泥火山の地表面温度分布（12月16日撮影）  
泥火山内には少量の泥水が溜まり、東側から少量の噴気を確認しました。また、周辺より地表面温度の高い領域を確認しました。  
泥火山は、伽藍岳山頂の南西約 500m に位置する噴気地帯です。

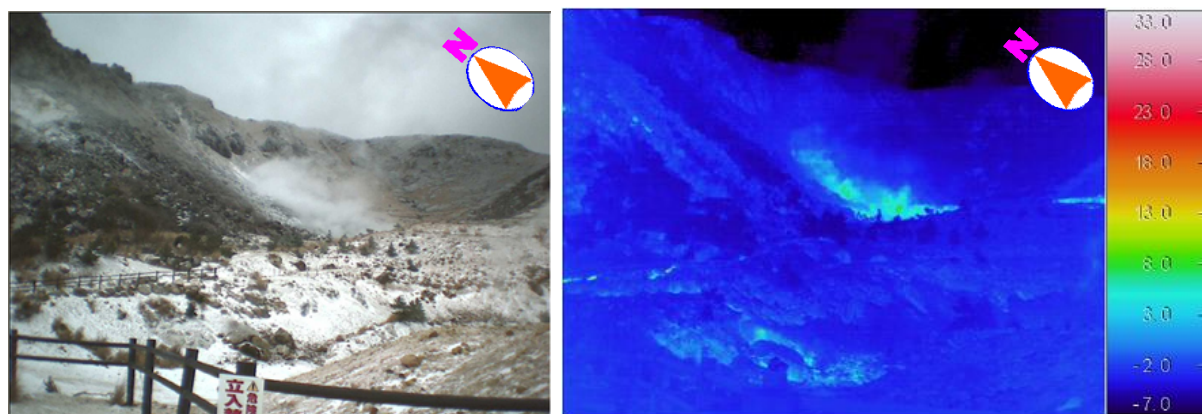


図 3 鶴見岳・伽藍岳（伽藍岳）  
赤外熱映像装置による A 群の地表面温度分布（12月16日撮影）  
噴気地帯 A 群では少量の噴気および周辺より地表面温度の高い領域を確認しました。  
A 群は、伽藍岳山頂の南西約 300m に位置する噴気地帯です。

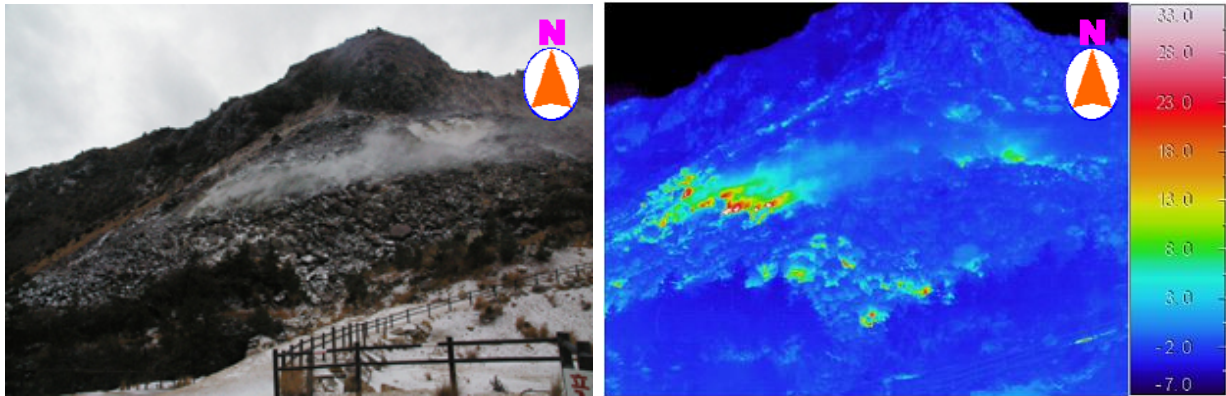


図 4 鶴見岳・伽藍岳（伽藍岳）  
 赤外熱映像装置によるB群の地表面温度分布（12月16日撮影）  
 噴気地帯B群では少量の噴気および周辺より地表面温度の高い領域を確認しました。  
 B群は、伽藍岳山頂の南西約400m位置する噴気地帯です。

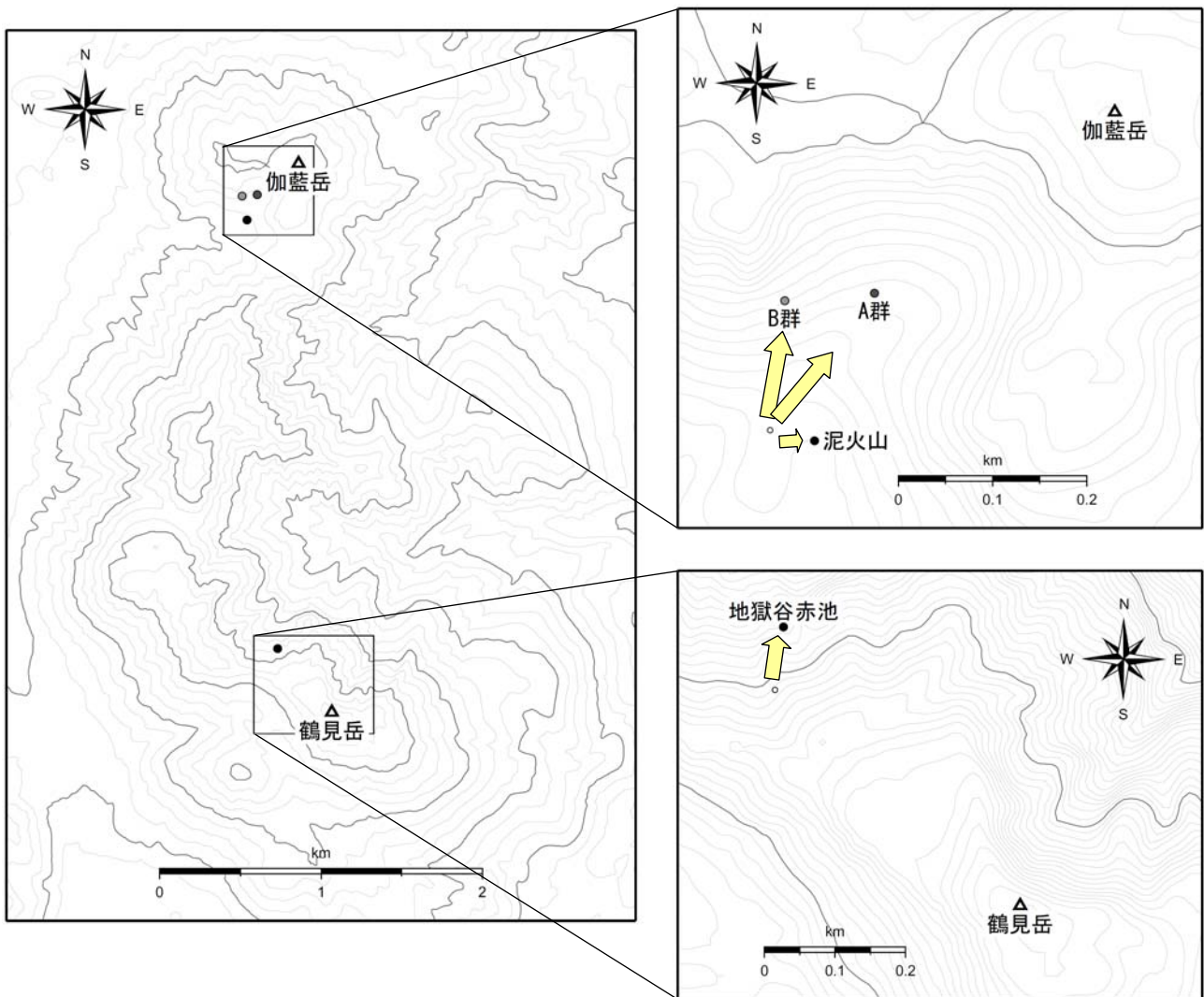


図 5 鶴見岳・伽藍岳 撮影位置および方向

矢印は撮影方向を示しています。



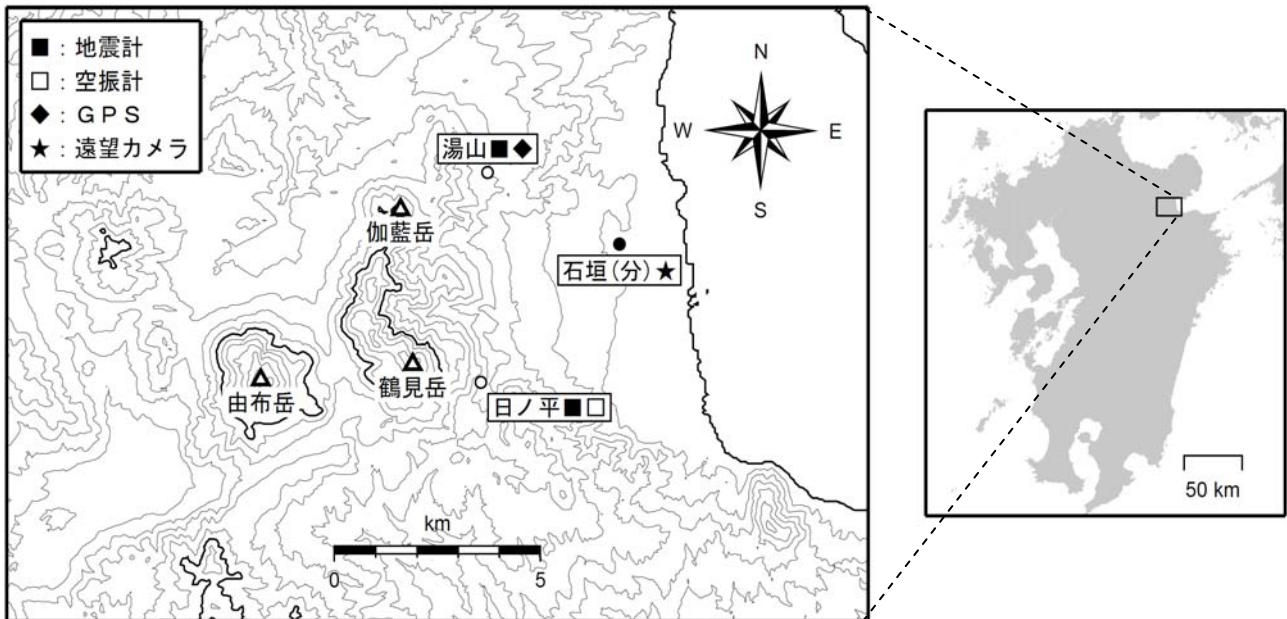


図6 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は大分県の観測点位置を示しています。  
遠望観測点「石垣(分)」は鶴見岳監視カメラ(大分県)を示します。

表1 鶴見岳・伽藍岳 気象庁(火山)観測点一覧(緯度・経度は世界測地系)

測器種類	観測点名	位置			設置高(m)	観測開始年月	備考
		緯度(°′)	経度(°′)	標高(m)			
地震計	湯山	33° 19.53′	131° 27.07′	460	0	2010.8.2	短周期3成分
	日ノ平	33° 16.92′	131° 26.93′	398	0	1994.7.7	
空振計	日ノ平	33° 16.9′	131° 26.9′	398	2	1994.7.7	
GPS	湯山	33° 19.5′	131° 27.1′	460	3	調査運転中	